

2023年7月11日
一般社団法人 日本船主協会

明珍会長コメント IMO の新たな GHG 削減目標について

先週、国際海事機関（IMO）の第 80 回海洋環境保護委員会（MEPC80）において、国際海運 2050 年ネットゼロを目標とする「2023 年 GHG 削減戦略」が採択されました。

従来目標との変更点は、2050 年に 2008 年比で GHG の総排出を半減し、今世紀中に GHG 排出ゼロを目指すとしていたものを、大幅に前倒しして、パリ協定にある通り段階的に削減し、2050 年頃までにネットゼロを目指すとするものです。

この段階的な削減過程において、2030 年には 2008 年比で総排出量を 20%～30%、2040 年には 70%～80%を削減することが目安として掲げられました。

また、2030 年までにゼロエミッション燃料等が 5%～10%導入されることを目指すことも目標に加わりました。

このほか、2018 年の目標に掲げられた、2030 年において効率ベースで 40%削減（2008 年比）するという目標は維持されます。

日本船主協会では、2021 年 10 月 26 日に「2050 年 GHG ネットゼロへの挑戦」を表明しております。今回の「2023 年 GHG 削減戦略」で採択された目標は、日本船主協会が表明している目標と一致するものであり、今回の IMO の決定を海運業界として歓迎いたします。

今後、IMO において、この目標を達成するための具体的な国際ルールの策定に向けた議論が本格化することが見込まれますが、日本政府のリードを期待しており、海運業界としてもバックアップしていきます。

引き続き、広く海運業界に係るステークスホルダーの皆様のご理解・ご協力を得ながら、地球温暖化防止対策への取り組みに邁進して参る所存です。

なお、日本船主協会における環境への取り組みを HP に公開しておりますので、ご覧いただければ幸いです（今回の決定内容は 7 月中旬に反映する予定です）。

以上